

数学 広島大学（前期） 数学（理系）

<全体分析>

試験時間 150 分

解答問題数

5 題

解答形式

記述形式

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

出題の特徴や昨年との変更点

数学（文系）型との共通問題が2題から1題に減り、数学III Cからの出題が2題から4題に増えた。

その他トピックス

昨年は融合問題が1題であったが、今年度は3題であった。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
[1]	微分法・積分法	III	関数の最大値、x軸まわりの回転体の体積	標準
[2]	対数関数、数列	II,B	点列と漸化式	標準
[3]	関数の極限	III	三角関数の極限	標準
[4]	確率、数列、積分法	A,B, III	カードの取り出しに関する確率、区分求積法	やや難
[5]	数列、複素数平面	B,C	漸化式で定められた複素数列	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

まず全分野にわたり基本を身につけたうえで、融合問題に取り組んでおこう。

計算量の多い問題にも対応できる計算力を養っておこう。